

土木学会 原子力土木委員会 津波評価部会 第2回 議事録

日 時 : 平成 19 年 8 月 27 日 (月) 14:00~16:00

場 所 : 鹿島建設

出席者 : 首藤主査, 栗山委員, 佐竹委員, 福濱委員, 平田委員, 蛭沢委員, 星氏 (四家委員代理), 松本委員, 中嶋委員, 東川委員, 村本氏 (秋山委員代理), 川本委員, 浅野委員, 大坪委員, 高岡委員, 榊山委員, 藤井幹事, 池野幹事, 松山幹事, 安中幹事, 山木幹事, 稲垣幹事, 木場幹事, 金戸幹事

次 第 : 0. 主査挨拶

1. 前回議事録の確認
2. 津波評価部会の概要 (資料 1)
3. 津波による海底地形変化の研究
 - 3-1 津波砂移動実験 (資料 2-1)
 - 3-2 矩形港湾実験 計測時系列波形 (資料 2-2)
 - 3-3 モデル港湾実験 計測時系列波形 (資料 2-3)
4. 実験見学
5. 質疑応答
6. その他

議 事 : (Q : 質問, C : コメント, A : 回答)

幹事団より, 各資料に基づき報告がなされた。その際, 以下の質疑応答, コメントがあった。

1. 津波評価部会の概要 (資料 1)

(特になし)

2. 津波による海底地形変化評価手法の研究, 実験見学, 質疑応答

C : 濁度計測結果の小さな振幅は何を計測したものか。数値計算を実施する場合どこまであわせる必要があるかに関わる。

C : 実験をみると砂漣ができています。砂移動に対する砂漣の影響をおさえておいた方がよい。

Q : 実験データはどのように整理していくのか

A : 浮遊砂濃度と流速から計算のフラックスと比較する。

C : データが膨大な量になるが、実験結果と解析結果の比較をする上で、何がはずせないかを押さえる必要がある

C：実験をみると港内から港外へ砂がでていっている。中から外へでた砂の量をおさえておく必要がある。港の外も計測するようにした方が良いのではないか

Q：港湾の大きさが砂の移動量に影響するのではないか。

A：港湾の大きさも影響すると思われるため、周期を変えた実験を行うこととしている。

Q：実験の状況をビデオ撮影しているか

A：上からビデオ撮影を行っている。

Q：実験後の地形計測はいつ行っているのか

A：実験終了後一晩おいた後計測を行っている。

C：地形計測については、計測領域を分割して、領域ごとに侵食・堆積をチェックする方法も考えられる。

3. その他

(中越沖地震時の津波について)

C：能登の時も柏崎港の水位が大きかった。釧路港では港内で共振して大きくなったことがあるが、柏崎港は1波目が大きいのでその可能性はないと思うが。

Q：津波を計測している地点の地盤があがったりしていないか

A：確認できていない。

Q：発電所で津波記録はとれていないか

A：港内の波高計でデータを取得できていることは確認している。現在、短周期成分、港内の幅振動成分等の除去処理を実施している。

C：低気圧が通り抜けた後の記録も検討してみると、港の共振ものぞいて津波の記録が見ることができる。

以 上